2021年度日本沿岸域学会 研究討論会プログラム （2021年6月18日（金）・オンライン開催）

9:00 ～ 9:10　開会式

オンライン会場1

09:20～10:35　セッション１　沿岸域利活用（その１）
座　長：北澤大輔（東京大学生産技術研究所）

開始時間	講演番号	研究発表タイトル	講演者
9:20	1－1	空気ダンパーを搭載する大型弾性浮体の波漂流力特性	古矢祥一朗
9:35	1－2	GISを用いた災害時における主要病院の受入れ人数を考慮した医療支援浮体の適地選定	塩島宇晶
9:50	1－3	大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた変形と塑性ひずみに関する基礎的研究	西河内亮
10:05	1－4	弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 その1．弾性係留索の性能評価と弾性係留システムの復元力特性	鹿島　瞳
10:20	1－5	弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 その2．弾性係留システムとカテナリー係留の運動応答特性の把握	鈴木湧太

10:45～12:00　セッション５　沿岸域利活用（その２）
座　長：居駒知樹（日本大学）

開始時間	講演番号	研究発表タイトル	講演者
10:45	5－1	深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 その1．SLWRの構造特性把握	高野大輝
11:00	5－2	深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 その2．SLWRと係留索が接続する小型浮体の運動応答特性把握	高嶋実和
11:15	5－3	離島振興に寄与するクルーズ船寄港の効果と課題に関する研究	海老原碧
11:30	5－4	漁業地域・漁港におけるクルーズ船受入れ可能性に関する研究	竹山佳奈
11:45	5－5	新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえた安全安心なクルーズの受入について	戸田智司

オンライン会場2

セッション２　防災・復興・自然災害（その１）
座　長：後藤浩（日本大学）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
2－1	道路情報に基づいた津波避難困難地域の特定のための効率的なルート探索方法に関する研究	相田康洋
2－2	低頻度の高潮リスク評価における天文潮位設定の影響	久松力人
2－3	Performance Comparison of the Wave Overtopping Formulas using Solitary Wave Conditions and Onshore Wind Effects as Parameters	マルティネス カールソン ジェイ エヴィオタ
2－4	将来気候における台風接近時の高波浪による海岸侵食の予測	舩橋侑也
2－5	根浜海岸砂浜再生事業における養浜工効果影響解析	小澤宏樹

セッション６　防災・復興・自然災害（その２）
座　長：大谷靖郎（（一財）土木研究センター）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
6－1	災害時浮体式医療支援システムの計画概念	増田光一
6－2	既存防潮堤の老朽化に伴う耐震対策で設置される捨石補強工の問題点の指摘	後藤　浩
6－3	海洋安全保障の視点から見た国境離島の保全・管理	小森雄太
6－4	沿岸・海洋空間の利活用のための海底ジオハザードマップについて	村田一城
6－5	北海道根室市歯舞地区における小型漁船で操業する漁業者への防災情報伝達に関する研究	後藤卓治

オンライン会場3

セッション３　情報・計測（その１）
座　長：川崎浩司（（株）ハイドロ総合技術研究所）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
3－1	UAVによる由比ヶ浜および材木座海岸の3次元海浜形状の観測	押見青幹
3－2	UAVによる秋谷海岸での養浜後の3次元海浜形状の測定	大谷靖郎
3－3	ALB計測による神奈川県湯河原海岸の測量	壱岐信二
3－4	2浮体間のギャップが流体荷重に与える影響に関する基礎的研究	茂筑雄大

セッション７　情報・計測（その２）
座　長：金澤剛（東洋建設（株））

講演番号	研究発表タイトル	講演者
7－1	簡易水中探査ロボットによる海洋調査と海洋教育に関する研究	松岡和彦
7－2	海岸での海水浴利用客分布の測定法	野志保仁
7－3	地域連携型の沿岸環境モニタリングで目指す地域社会への貢献 ―津軽海峡の海洋観測研究を通して社会に価値ある情報を提供する―	榎本　有
7－4	津波自主避難計画策定の手引きに関する基礎的研究	高須健亘

オンライン会場4

セッション４　環境・生物・生態系（その１）
座　長：桑江朝比呂（港湾空港技術研究所）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
4－1	水俣湾公害防止対策事業後のまちづくりの変遷	増田龍哉
4－2	水俣湾公害防止対策事業における浚渫工事での環境管理	内藤了二
4－3	経済・環境・社会的観点からの洋上風力発電の課題の検討	三木皓貴
4－4	公開されている環境データによる東京湾の長期水質変化の抽出と施策検討への活用	高尾敏幸

セッション８　環境・生物・生態系（その２）
座　長：村野昭人（東洋大学）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
8－1	海苔づくりを通して見た都市沿岸域の環境評価に関する予察的研究－その2－	古川恵太
8－2	竹炭を用いたマイクロプラスチック、ナノプラスチック採取法に関する研究	森耕太郎
8－3	千葉県主要河川における魚道の分布および状況の簡易評価	佐藤哲也
8－4	江戸川河口干潟におけるウミニナの生息状況と東京湾における本種の再生に向けた方針の検討	秋山吉寛

12:00 ～ 13:00　お昼休み

オンライン会場1

13:00～14:15　セッション９　沿岸域利活用（その３）
座　長：高橋浩二（（株）日本港湾コンサルタント）

開始時間	講演番号	研究発表タイトル	講演者
13:00	9－1	対欧米コンテナ輸送における釜山港依存リスクの分析	赤倉康寛
13:15	9－2	船舶入出港関連行政手続システムの情報表現規約に関する国際標準化と実装の統一化に向けた考察	飯田純也
13:30	9－3	臨海部における火力発電所の立地動向と土地利用転換の動向について	松永康司
13:45	9－4	中国青島市の都市臨海部の水辺環境に対する来訪者の意識・行動に関する調査研究　－その1 青島市の海岸地区を訪れる 来訪者の居住地とアクセス手段－	孫　旭光
14:00	9－5	中国青島市の都市臨海部の水辺環境に対する来訪者の意識・行動に関する調査研究　－その2 青島市の海岸地区を訪れる目的と水辺評価－	畔柳昭雄

14:25～15:40　セッション１３　沿岸域利活用（その４）
座　長：菅原遼（日本大学）

開始時間	講演番号	研究発表タイトル	講演者
14:25	13－1	臨海部における官民連携の取組事例について	小松崎真彦
14:40	13－2	運河を活用したまちづくりの あり方の研究 －兵庫運河周辺地域を対象として－	鈴木　覚
14:55	13－3	海上ウォーターパークの整備実態と効果に関する研究 -御前崎海水浴場と勝浦中央海水浴場を対象とした調査-	寺口敬秀
15:10	13－4	港湾空間の一般開放に関する研究 －市民の利用促進を目的に開放された事例を対象として－	小出将貴
15:25	13－5	横須賀港における「海と船が見える坂道」と「プラフ積擁壁」の分布特性 －港町の地域資源としての可能性－	吉田秀樹

15:50～16:50　セッション１７　沿岸域利活用（その５）
座　長：村井基彦（横浜国立大学大学院）

開始時間	講演番号	研究発表タイトル	講演者
15:50	17－1	水上オートバイ(PWC)における事故の分類	千足耕一
16:05	17－2	海での体験活動が参加者のライフスキル獲得に及ぼす影響 －指導者を対象とした質問紙調査の質的分析－	蓬郷尚代
16:20	17－3	アマモ場造成活動による沿岸域活性手法成立への現状と課題	園山芳充
16:35	17－4	日本の渚百選の一つ高戸小浜の消失	大木康弘

オンライン会場2

セッション１０　沿岸域管理（その１）
座　長：柴山知也（早稲田大学理工学術院）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
10－1	表浜海岸における砂浜断面の長期モニタリングとその変化特性	加藤　茂
10－2	鳥取県天神川 における河口砂州の地形変化特性の検討	石井和希
10－3	鎌倉市稲村ケ崎周辺における海食崖と海食洞の発達	星上幸良
10－4	海岸線付近の土地の縦割り管理から必然的に起こる自然海浜の消失	宇多高明
10－5	犬吠崎に隣接する君ヶ浜海岸の変遷	横田拓也

セッション１４　沿岸域管理（その２）
座　長：佐々木淳（東京大学大学院）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
14－1	岩礁域を考慮した中小港湾の航路・泊地埋砂予測に関する研究	都倉幸太朗
14－2	中国の海洋生態レッドライン制度に関する基礎的研究	高　翔
14－3	総合海洋政策に関わる「基本計画」のテキスト分析からみた政策連携の方向性の検討	但馬英知
14－4	日本海洋産業の規模とその構造変化の特質	毛　蕾
14－5	放置艇を巡る諸問題　－対策のボトルネックと展望－	木下　明

セッション１８　沿岸域管理（その３）
座　長：山田吉彦（東海大学）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
18－1	海洋観光の地域マネジメントに関する研究 ―沖縄県産間味村の「美ら島税」を事例として―	蘭　亦青
18－2	水上交通等を活用した回遊性向上に関する取り組み ―中川運河を活用した新しいみなとまちづくり―	長倉敏郎
18－3	多様な主体の協働による地域の小さな自然再生活動に期待される要因の検討 ―河川愛護団体「新大宮川を楽しくする会」主催連続講座を事例として―	法理樹里
18－4	球磨川河口干潟における現地調査とPBL教育活動	上久保祐志

オンライン会場3

セッション１１　物理現象・自然現象・その修復保全
座　長：島谷学（五洋建設（株））

講演番号	研究発表タイトル	講演者
11－1	「鳴門の渦潮」発生メカニズムの解明（Ⅰ） 渦潮の動態実測調査による渦規模の定量的評価	熊田康邦
11－2	「鳴門の渦潮」発生メカニズムの解明（Ⅱ） 水理模型実験による海峡地形と渦潮の関係性の検証	三好順也
11－3	日本海西部の小規模漁港における長周期成分波と港内流動についての研究	小泉知義
11－4	海食崖前面の砂丘の形成メカニズムに関する研究	辛　翔
11－5	無反射スキームを応用したネスティング手法の開発	藤田　睦

セッション１５　水産（その１）
座　長：吉塚靖浩（（一社）水産土木建設技術センター）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
15－1	画像RGBを用いたアサリの個体数推定の試み	市村　康
15－2	東京湾奥部船橋航路における貧酸素水塊の湧昇に関する検討	遠藤雅実
15－3	簡易モニタリングを用いた養殖場底質への負荷推定手法	北澤大輔
15－4	CPUEの導出のための機械学習の有用性の検討	岩田繁英
15－5	アサリ漁場としての干潟環境の維持管理と利用	中西　敬

セッション１９　水産（その２）
座　長：岩田繁英（東京海洋大学）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
19－1	持続可能な漁業と魚食に向けた包括的評価の試み	黒田桂葉
19－2	沿岸域の内発的発展と漁協の役割 ―根室市歯舞漁協を事例として―	川辺みどり
19－3	改正漁業法の経済評価 ―北海道函館市のスルメイカ産業を例として―	田中　元
19－4	日本における小規模漁業存立の重要性	浪川珠乃

オンライン会場4

セッション１２　環境・生物・生態系（その３）
座　長：木原一禎（エム・エム　ブリッジ（株））

講演番号	研究発表タイトル	講演者
12－1	熊本港における浚渫土砂を活用 した人工干潟造成と生物生息創生過程の実証試験	松山為時
12－2	博多湾浚渫土砂を用いた覆砂による環境改善効果	西土井誠
12－3	Speedy Sea Scanner-portable(SSS-P)を用いたフィリピン沿岸域の海底環境調査	水野勝紀
12－4	還元条件下の海水中におけるヒ素及びリンの溶出抑制に関する研究	久保田通代
12－5	非イオン界面活性剤の吸着特性に関する基礎的検討	西村恵美

セッション１６　環境・生物・生態系（その４）
座　長：古川恵太（海辺つくり研究会）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
16－1	エコツーリズムの活性化を目指したサンゴ生育装置（GMC）の導入	小村秀蔵
16－2	名蔵湾におけるサンゴの増殖実験経過について	木原一禎
16－3	浜崎海岸の人工リーフにおけるサンゴの生育と環境因子に関する現地調査	松本範子
16－4	東京湾木更津市金田地先におけるアマモ類の生育について	淺井貴恵
16－5	アマモ衰退期におけるアマモ場生物群集に関する考察	石田彩穂

セッション２０　土木・建築
座　長：富田孝史（名古屋大学大学院）

講演番号	研究発表タイトル	講演者
20－1	ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性の変化に関する研究 （その1．部材損傷による振動モ ード形への影響把握）	成松青空
20－2	ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性の変化に関する研究 （その2．部材の剛性低下率と固有振動数の低下率の相関関係の把握）	小岩立汰
20－3	浚渫工事を対象とした作業可否判断AIモデルの構築	神田泰成

17:00 ～　意見交換会